

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401830		
法人名	有限会社 エス・ワイ・シー		
事業所名	グループホーム クベレ		
所在地	長崎県雲仙市小浜町金浜422-2		
自己評価作成日	平成29年10月1日	評価結果市町村受理日	平成29年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成29年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは橘湾に面した所にあり、天気の良い日は、ホームのリビングから愛野の展望台や唐比・有喜の海岸線を望むことが出来ます。また すぐ前には国道251号があり、人や車の行き来を眺めたり、マラソンや駅伝の応援をすることも出来ます。ホームの裏山には春は桜、初夏はオニユリ、冬は椿・・と四季折々の花が楽しめます。家庭的な雰囲気を中心に、ゆったりと穏やかに過ごせるよう支援しています。食事旬の野菜をふんだんに使用し手作りで、入居者様より好評を得ています。近隣の保育園や小学校との交流やボランティアによる慰問も積極的に受け入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成16年開設の当ホームは、13年の勤務経験の管理者を始めとして経験を重ねた職員の連携により、利用者のゆったり介護を心掛けて、利用者本位の支援に努めている。建設時、飲料水として井戸の掘削により、湧き出した泉の意図を考慮して、「グループホームクベレ」の命名に至っている。ホームは、木材をふんだんに使われた梁、そしてガラス越しに見る橘湾の雄大な景観に心地良さを感じられる。職員は、外出の機会も考慮しているが、季節に応じてデッキでの日光浴やドライブで季節の変化も感じてもらえるように努めている。管理者は、栄養師としての知識を生かして、入居者の糖尿病等を食事にて改善に努め、毎夕食のフルーツヨーグルトも少しずつ馴染んで食されている。職員は、地元の鮮魚や旬の野菜を豊富に取り入れて、美味しい食事の提供を心掛けて取り組んでいる。訪問時、美味しくそうにしっかりと食事をされている入居者の様子が印象的で、職員の努力が窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で考えた理念をもとに 常々「ゆったり介護」を心掛けている。朝のミーティングで「職場の教養」という冊子を通して介護する時の気持ちを引き締めている。	職員は、毎朝の業務の申し送り時に「職場の教養」の冊子に記された、一日一日異なる内容を分担で声に出して読む事で職員の心をひとつにして、利用者本位のゆったりとした介護を意識して、支援の言葉やあらゆる動きに配慮した支援を取組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の保育園や小学校と交流会を行っている。自治会にも入り、清掃や地域の祭りなどにも参加している。	ホーム長は、地域の行事に参加協力したり、自治会や近隣と良好な関係性を持ち、理解と協力を得ている。職員は、入居者が一番喜んで笑顔が見れる保育園の園児や小学生との交流を継続的に取組んでいる。又、近隣の方の理解と協力や地場の鮮魚やウニを頂くこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生の体験学習の受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催。家族代表は持ち回りで参加して頂いている。最近では、特に新しく入居された方のご家族に来ていただき、新たな意見が出るようにしている。	運営推進会議は、2か月を目途に市職員・民生委員・家族代表・ホーム長他職員2名で構成され、入居者の現在の状況と行事の予定や報告をして、双方向に話し合い質問に返答されている。遠方の家族には、会議の内容の報告文を発送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターに困難事例を相談したり空き部屋などの情報提供をしている。運営推進会議には市役所の支所長にも出席して頂いている。	職員は、運営推進会議で顔の見える関係性を保持でき、支所に赴き更新手続き等を取組んでいる。又、包括支援センター職員との連携で生活保護者の入居に繋がっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束はしない」ことを基本に介助を行っている。困難な事例が出てきた時は、拘束なしで介助できる方法を皆で話合っている。	職員は、接遇マナーにおいて「言葉に注意しましょう」を意識し相互に留意した支援を取組んでいる。入居者の状況に応じて、食事中の体位補強のベルトを家族に口頭で伝えて使用してみたが、経過を見て解除したり、夜間の転倒予防にセンサーマットの使用を家族に説明して安全を考慮した支援の中でも常に、身体拘束をしないケアを心掛けて取組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ニュースや研修等で聞いた虐待事例を職員間で話し合ったり、介助法で問題ないか話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センターの職員と話すこともあり、必要な時はいつも相談できる関係にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個々に説明し同意を頂いている。家族会でも改定内容などを説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に要望等を聞くようにしている。その時に出了たことを スタッフ会議等で話している。家族会で職員紹介をしている。	職員は、年1回開催の家族会や家族の訪問時に挨拶と意見や要望に答えて家族の安心に繋がる支援を心掛けている。家族の方に敬老会への参加にお声を掛けて、共に園児のお遊戯を楽しんで頂ける様に取り組んでいる。又、預り金収支明細書にて金銭管理も整っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議には必ずホーム長と管理者も出席し、意見交換をしている。	職員は、ホーム長の指示の下、倫理性の学びに相互の関係性も良好で、入居者への支援に話し合いながら努めて、時折、食事会もされている。職員の離職は少なく、管理者との連携を大切に業務を自主的に行い、便座の高さの調節やエアマットの購入に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、普段から話し合う機会が多いので、スタッフのことを理解し、要望等も聞いている。代表者と相談しながら、環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフだけで勉強会をしたり、外部研修会に参加したりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	雲仙市GHや島原半島GH連絡協議会に入っており、連絡協議会主催の研修会や風船バレー大会に参加し、交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人や家族に会って話を色々聞いている。基本情報を元に話しやすい関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	基本情報を入手する時に、家族の思いや不安等を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人・家族、前施設職員から本人の様子や要望等を聞いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来ることは自分でして頂いている。また野菜の皮むきや洗濯物たたみ、拭き掃除なども一緒に協力して行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話やライン等で連絡し合っている。遠方の病院受診の時などは、介助の協力がある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人・知人の面会を歓迎し、記念写真を撮っている。近くの店や公園に出掛けたりしている。	職員は、グループホームの立地が国道沿いにある事で、買い物の際に親戚の方や知人が立ち寄って頂き、他の地域の民生委員の方が関わりのある入居者を案じて訪問される事もある。又、家族との関係性も大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を考えて、リビングや食卓の席を決めている。他の人のお膳を下げたり、テーブルを拭いて手伝ったりという姿も見られます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族に電話をしたり街中で会ったりした時などに状況を聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人・家族から話を聞かすが、その後の本人の言動にも注意して、本人の思いを聞いている。	職員は、入居者の思いの把握に努めて、入浴支援や買い物でのドライブの折に会話の中から思いの聞き取りに心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人・家族から話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意向を聞きながら、出来ることは自分でされるよう声かけ・誘導している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝のミーティングや月1回のスタッフ会議等で本人の状況や介助法など話し合っている。面会時に家族に状況を説明し、要望を聞いたりしている。	生活支援計画は、長期6か月・短期3か月を目途に入居者のj状況の変化に応じて随時の見直しをして、計画作成担当者が職員会議で職員の意見を聞き取り作成している。又、支援経過記録は詳細に記録されている。管理者は、生活支援計画の具体的内容の追求を考慮している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個人記録に記入している。毎朝のミーティングやスタッフ会議でも情報交換し切れ目のない介助や見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度 気になることはスタッフで話し合い、医師や看護師、包括支援センター等に相談したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の総合支所や包括支援センター、民生委員の方や近隣の方とも交流があり、協力してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を尊重し、受診の支援をしている。	かかりつけ医は、定期的な訪問診療で入居者の健康保持に配慮して、家族及び職員の安心に繋がっている。入居者の熱発等の緊急時の対応もかかりつけ医との通信手段の連携により、紹介状及び救急搬送等の迅速な対応で協力を獲られる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回 看護師が来て入居者の健康チェックをしている。いつもの介助で気になったことを看護師に報告・相談している。必要に応じて受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族に状況を聞いたり、見舞い行って主治医や看護師にも話を聞いている。病院の医療連携室とも連絡している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについて説明をしている。本人・家族の希望に沿うように努めるとともに家族の協力もお願いしている。	看取りの経緯はなく、現状、入居者の病状の変化に医師の判断で入院に至っている。職員は、「入居者の重度化及び看取りが生じた場合等における対応指針」の文書を整えて、支援の在り方を話し合っている。看取りの経験のある施設の職員を交えて勉強会を実施したり今後も、在宅療養の看取りについての研修等を受講する予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを配布したり、救命講習会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に2回スタッフ全員で避難訓練を行っている。自主訓練、見直しなども時々している。	避難訓練は、昼間想定自主訓練及び夜間想定消防署立ち合いの訓練を実施している。職員は、1年間の任期で避難班・救護班・通報班の役割を担当して訓練に臨んでいる。入居者の安全避難を考慮して、台風の到来に備えて同経営のデイサービスの施設への避難を行っている。災害時の備蓄食品の増量に取組み、6か月を目途に消費期限の見直しを考慮している。	入居者の安全避難を常に考慮して、災害に備えた危機管理に努めて頂き、情報の収集を望むと共に避難経路の掲示・避難口を確認したところ、洗濯干し場への出口を避難経路とされる上では、車椅子が容易に避難出来るようなスロープの増設を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長くなるとつい馴れ馴れしい言葉遣いになるので、スタッフ間で注意している。	職員は、入居者一人ひとりの人格を尊重して言葉掛けに配慮すると共に動作を見守り、安全な日常の支援を取組んでいる。入居者相互のトラブルの回避やプライバシーに配慮して居室やトイレでの失禁対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれの場面で本人に どうしたいのか尋ねている。また いろんな会話の中で希望や要望を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康のためにお昼寝タイムを設けているが、基本は本人の好きなように過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝 熱いタオルで顔を拭いたり、洋服をきちんと着ているか見て支援している。新しい服も家族に相談して買いに行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は出来るだけ旬の食材を使い、一緒に皮をむいたり、ささがきしたりしている。おしぼり巻きやお盆拭きなど入居者のお仕事として定着している。	職員は、地元の魚や旬の野菜を豊富に取り入れ、入居者の咀嚼状況に応じて刻み・お粥等の献立を考慮したおいしい食事の提供を心掛けている。入居者の糖尿病や便秘予防の為の食事で薬の服用も少なくなっている。入居者もごぼうそぎ・台ふき・食器拭き等できることで協力されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた食事を心掛けている。水分補給も食事以外にも小まめに促している。呑み込みが悪い方には、小さく切ったり、トロミを付けたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 全員口腔ケアを行っている。必要に応じて介助や誘導をしている。入れ歯は洗浄剤入りの液に浸けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄できる人には、動きに合わせて誘導・介助を行っている。失禁がある人には、時間を見てトイレ誘導をしている。	職員は、入居者の排泄状況を把握して、トイレの場所の明示とトイレにおける自立排泄を心掛けて、布パンツや必要に応じてトレーニングパンツにパットを使用している。男性入居者の入居に伴い、男性用のトイレを増設して混雑緩和に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から野菜を多く使った料理を提供している。夕食時には必ずフルーツ入りのヨーグルトを食べて頂いている。体操や水分補給も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	だいたい入浴する日は決めているが、その都度本人の意向を聞いてから入浴して頂いている。	職員は、入居者の意向や身体状況を把握して、週2回を目途に午前中に入浴支援を心掛けている。温泉への入浴を支援していた時期もあったが、現在はなく、入居者の皮膚湿疹や褥瘡予防を心掛けて保湿クリームを塗り、入浴のない折は清拭等の支援で清潔の保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯は9時だが、それぞれ好きな時間に休まれている。シーツ交換、布団の調整、居室の温度・湿度管理をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬情報を作成しており、マニュアルに沿って服薬介助をしている。気になることがあれば、医師や看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除やお盆拭き、洗濯物たたみなど出来る事を毎日手伝って頂いている。保育園との交流、ボランティアの慰問などを受けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一緒に買い物に行ったり、お花を見に行ったりしている。また家の用事で外出される時も支援している。テラスに出でお茶会をしたり、マラソンの応援などもしている。	職員は、入居者の身体状況に応じて外出支援を心掛けている。今年度は、6月に手作りのお弁当を持参して、全員で公園に出かけて楽しませている。職員は、入居者の同意が得られた折に、買い物やドライブで外出の機会を設けている。又、季節の花の開花の時期に合わせての外出も支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の意思に任せている。所持されている方には、支払い時に介助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも取り次いでいる。はがきも代筆で出すこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、台所、廊下に仕切りがないので良く見渡せ、大窓からは橋湾が見え開放的な作りになっている。遮光・遮熱カーテンとペアガラスのため、光や音などは気にならない。	共用空間は、テーブル・ソファ・テレビを配置して、台所から入居者の動きを見れる様にミラーを設置する等工夫をしている。共用空間から見る雄大な景観は、とても素晴らしくマラソン等の応援もできる。廊下には、入居者の習字や手作りの作品と行事における写真等を掲示してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに自分の好きな所に座って過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と話して使いやすいように配置している。収納も出来る人は、自分でして頂いている。	居室は、明るくて持ち込み品のテレビの他、衣類等の収納庫を備えてあるので整理されている。職員は、必要に応じて預り金での肌着の購入又は持参して頂くか等家族の協力を得て、必要な衣服を整えて心地よく過ごせるように配慮している。。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂場(脱衣室含む)などに手すりを増やしたり、トイレの便座の高さを高くしたりして、安全に自立して出来るようにしている。		